



## 待ち焦がれた 鉄道だった

鉄道の開通前、丹後ちりめんの反物は、京都市内にもどるよう運ばれたのかご存じでしょうか？

「台数が少なく、とても貴重であつただろう自動車……？」と思ひ浮かべる方もおられと思ひますが、日本の一般家庭において自動車が普及したのは1960〜70年代でした。ですから、当時、丹後ちりめんを運ぶための自動車は存在しませんでした。

運ぶ方法は、荷馬車やまさかの人力だったようです。背中にしよって運ばれたこともあつたようで、「行きに3日、帰りは2日」と時間を要したとも言われています。そう考えると、待ちに待ち望んだ鉄道であつたことに気づかされます。

## うれしいニュースが 舞い込む

1892（明治25）年、国が建設を予定する鉄道線路を定めた法律「鉄道敷設法」ができ、実際に建設されました。そして、新たに線路の必要性が生じたことから、



1922年（大正11）年に鉄道敷設法が廃止され、「改正鉄道敷設法」ができました。この改正法に予定線の一つとして、「京都府山田ヨリ兵庫県出石ヲ経テ豊岡ニ至ル鉄道」と記されたのです。そのため、鉄道省による現地測量が実施され、地域は歓喜にわきました。

## 自分たちの力で 地方鉄道を企画

この喜びは、住民による「山田、豊岡間鉄道期成同盟会」という組織の結成という行動に表れています。

## 関東大震災の発災で 資料が消失

しかし、無情にも1923（大正12）年、関東大震災が発生し、

保管されていた現地測量図や関連する資料がすべて消失。政府は、「山田から出石を経由して豊岡に至る線路」の敷設を断念することとなったのです。

## 強靱な思いで 株式会社を設立

それでも、加悦谷地域の人々は、地方鉄道の敷設を諦めることはありませんでした。経験ある技師に測量や設計を依頼。「加悦―丹後山田間」の線路の敷設に要する金額を見積り、その額に中古の車両を購入する費用などを含め、総額30万円が必要であると試算しました。そして、30万円を資本金として株式会社を設立するため、公募

株式を募集した結果、823人の出資者が現れました。その後、1925（大正14）年、国から地方鉄道設立の免許を得て、翌1926（大正15）年12月5日、ついに悲願の加悦鉄道が開業したのです。

## 結びに

待ち望まれて誕生した加悦鉄道が、この後、どのような社会を生きたのか、来月号以降もお伝えします。また、令和8年度は加悦鉄道開業100年を記念し、年間を通じて、さまざまなイベントが開催されますので、併せて紹介していきます。




大正13年の路線計画図

### 当時の30万円。 現在の価値に換算すると

お金の価値を単純に比較することは難しいものの、参考値として企業物価指数を用いて現在の金額に換算すると、大正12年の30万円は、令和7年ではおおそ2億500万円に相当します。

あくまで一つの指標による概算のため、現在、同規模の鉄道を開業しようとする場合、この金額では足りないとも考えられます。また、資金のすべてが、当時の地域住民の方々によって集められたことに、驚かされるばかりです。



## 1年表 — 国の鉄道開業 — 加悦鉄道開業

- 1872（明治5）年  
日本初の鉄道「新橋・横浜間」が開業
- 1877（明治10）年  
関西発の鉄道「神戸・大阪・京都間」が開業
- ※123号鉄道院蒸気機関車（加悦鉄道2号機関車）が活躍
- 1892（明治25）年  
鉄道敷設法の公布
- 1922（大正11）年  
改正鉄道敷設法の公布
- ※「京都府山田ヨリ兵庫県出石ヲ経テ豊岡ニ至ル鉄道」の記載があつた
- 鉄道省が現地測量を実施
- 「山田、豊岡間鉄道期成同盟会」が発足
- 1923（大正12）年  
関東大震災が発生（9月）
- ※政府は「出石経由、山田・豊岡間の鉄道」敷設を断念
- 1924（大正13）年  
地方鉄道の株式会社設立のため出資者を公募
- 1925（大正14）年  
地方鉄道設立の免許が得られた
- 1926（大正15）年  
加悦鉄道開業（12月5日）

加悦鉄道開業100年を機に、地域の歴史を振り返るとともに、未来に向けて日本の近代化遺産を軸としたまちづくりの推進につなげることを目的に、令和7年9月1日、加悦鉄道（加悦～丹後山田）開業100周年プロジェクト実行委員会を立ち上げました。

先月にはキャッチフレーズとロゴマークを決定しました。令和8年度は、加悦鉄道をより感じられる展示や体験型商品の販売など、1年を通じてさまざまな取り組みを進めていきます。

**【実行委員会の構成団体】** 特定非営利活動法人加悦鉄道保存会、与謝野町観光協会、ちりめん街道を守り育てる会、加悦区、京都北都ブランドマーケティング株式会社、阿蘇ベイエリア活性化委員会、社会教育課、産業観光課

**【オブザーバー】** 与謝野駅100周年委員会

